

発行所：社団法人 全国鉄道広告振興協会
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号 JR恵比寿ビル10階
TEL：03-5791-1808 FAX：03-3443-1616 メールアドレス：information@jarap.jp
URL：<http://www.jarap.jp/>

巻頭レポート

アウトオブホーム(OOH)メディアの プランニング現場から

—クロスコミュニケーションとしての交通広告について—

■クロスコミュニケーションと 交通広告

生活者は、多くの時間を「家の外」OOHで、費やしています。

一般的にOOHメディアといえば、まず交通広告と屋外看板を思い浮かべるかもしれません。

しかし、クロスコミュニケーション視点では、生活者が、家の外(OOH)で、接する全ての接点が、OOHメディアになります。

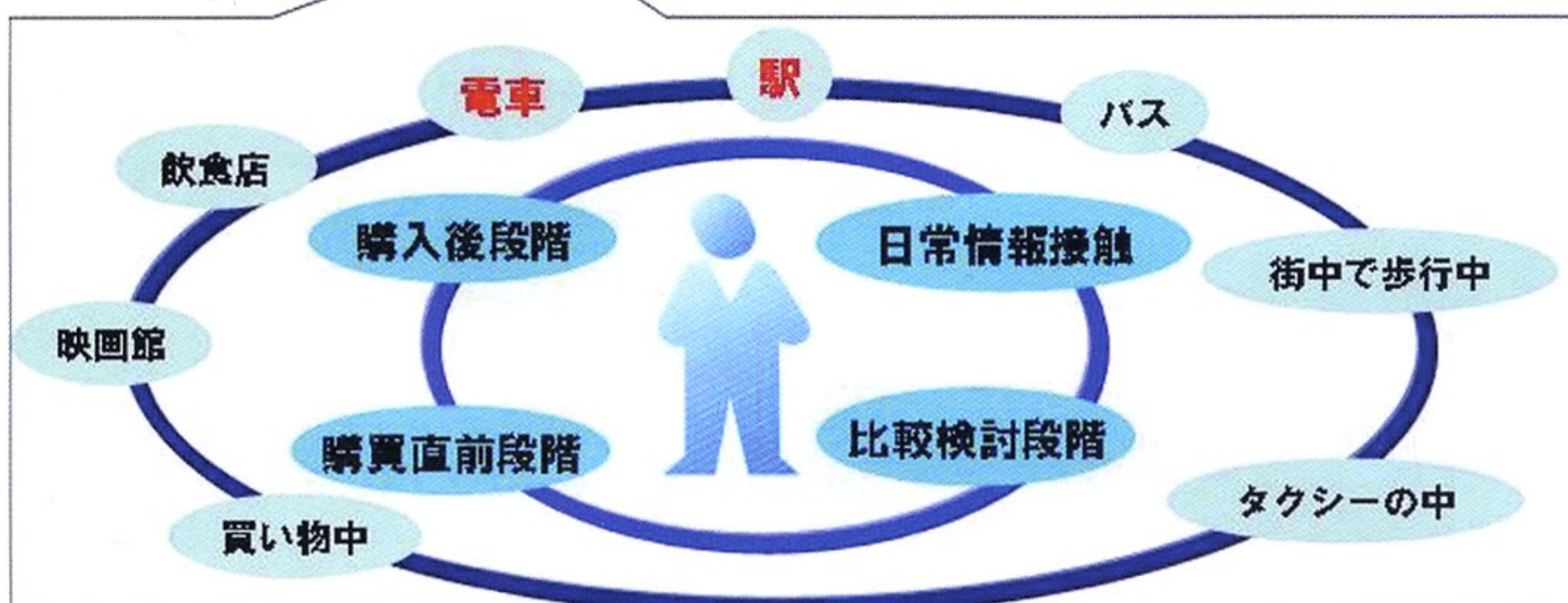
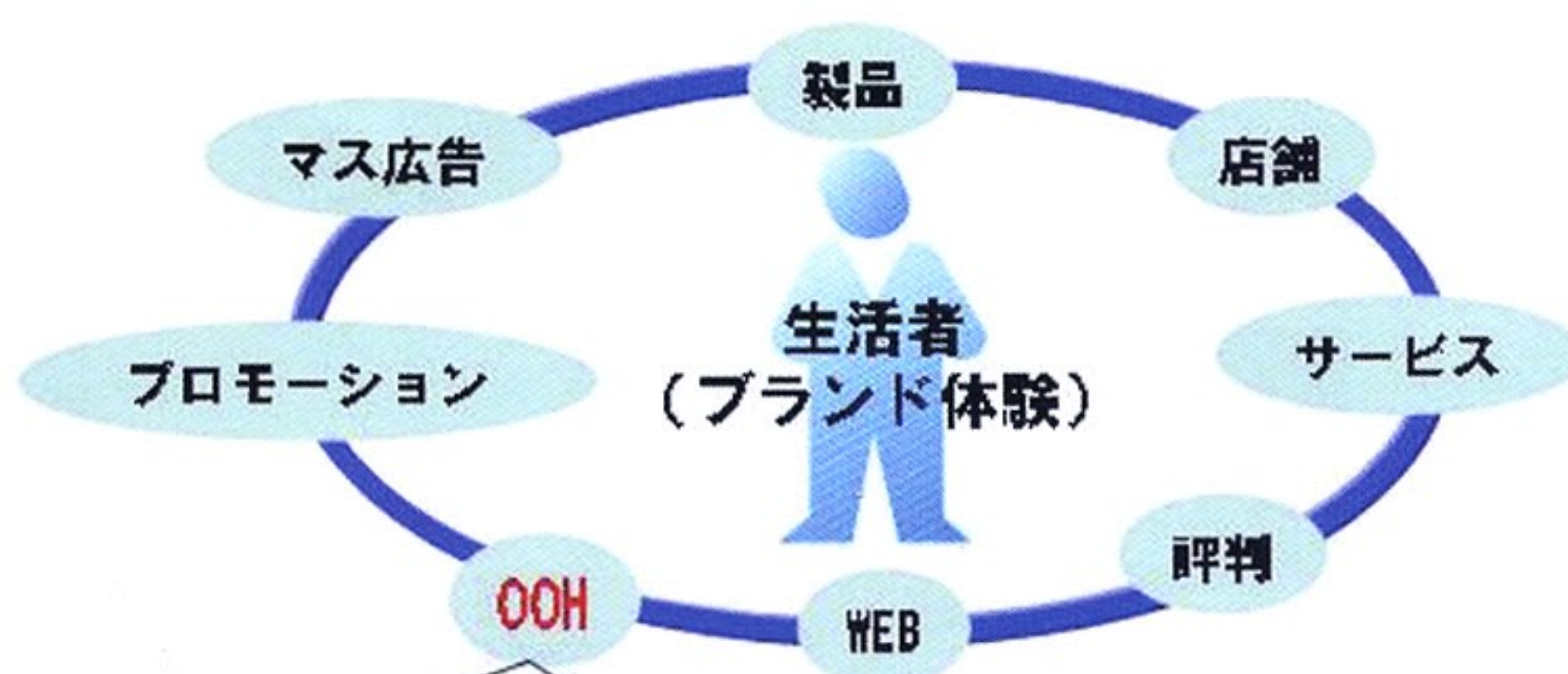
その中でも、交通広告は、大量の都市生活者に強制的に視認される可能性の高いメディアであり、フリークエンシーが高く、購買地点に近いことから、メディアプランニング上のOOH展開の中核をなすメディアであり、近年、そのメディアポジションは着実に高くなっていることは疑いの余地はありません。

しかしながら、メディアプランニングの際、交通広告とか、屋外看板というように、具体的な接点から発想すると良い提案はできないのもまた事実です。

ADKでは、

生活者の体験接点を「日常情報接触」「比較検討段階」「購入直前段階」「購入後段階」と、4つのステージを設定し、ブランド評価、商品利用実態、意識などのデータを収集する独自調査をしており、現在までに70以上のカテゴリーに対して、調査を実施しています(EX・PM調査)。

そこでは、どの段階で、購入ブランドを決めているか、それぞれの段階で、



(株)アサツーディ・ケイ
クロスコミュニケーション本部
アウトオブホームメディア局長
及川 聡明

重要な接点は何らか等々、メディアアプランニング上重要となる情報が蓄積されています。

つまり、クロスコミュニケーションにおいては、生活者(ターゲット)の生活の流れに沿って、考えることが重要であり、ユーザー視点から、注力すべき接点を選択し、メディアプランニングをする必要があります。

たとえば、通勤途中であれば、駅や車内の広告、タクシーでの移動中であればタクシー内のリーフレットや道路沿いの屋外看板、アフター5であれば、ショッピング施設(インストア)や飲食店、映画館、美容室はまたスポーツクラブなど様々な施設でのインストアメディアなどを、ブランドに適した接点を生活動線に合わせて考慮することが重要です。

そして同様に重要となるのが、生活行動接点に合わせたメッセージ開発です。例えば、同じ男性30代に向けた車内の中吊り広告でも、平日であれば、「ビジネス目線」なメッセージ、土日の車内であれば「レジャーやファミリー目線」のメッセージというように、ターゲットの気分に合わせてメッセージ開発をすることで、交通広告のメディアポジションをさらに向上させることができると考えています。

また、交通広告は、サイズや形状の多様性、近年のデジタルサイネージ

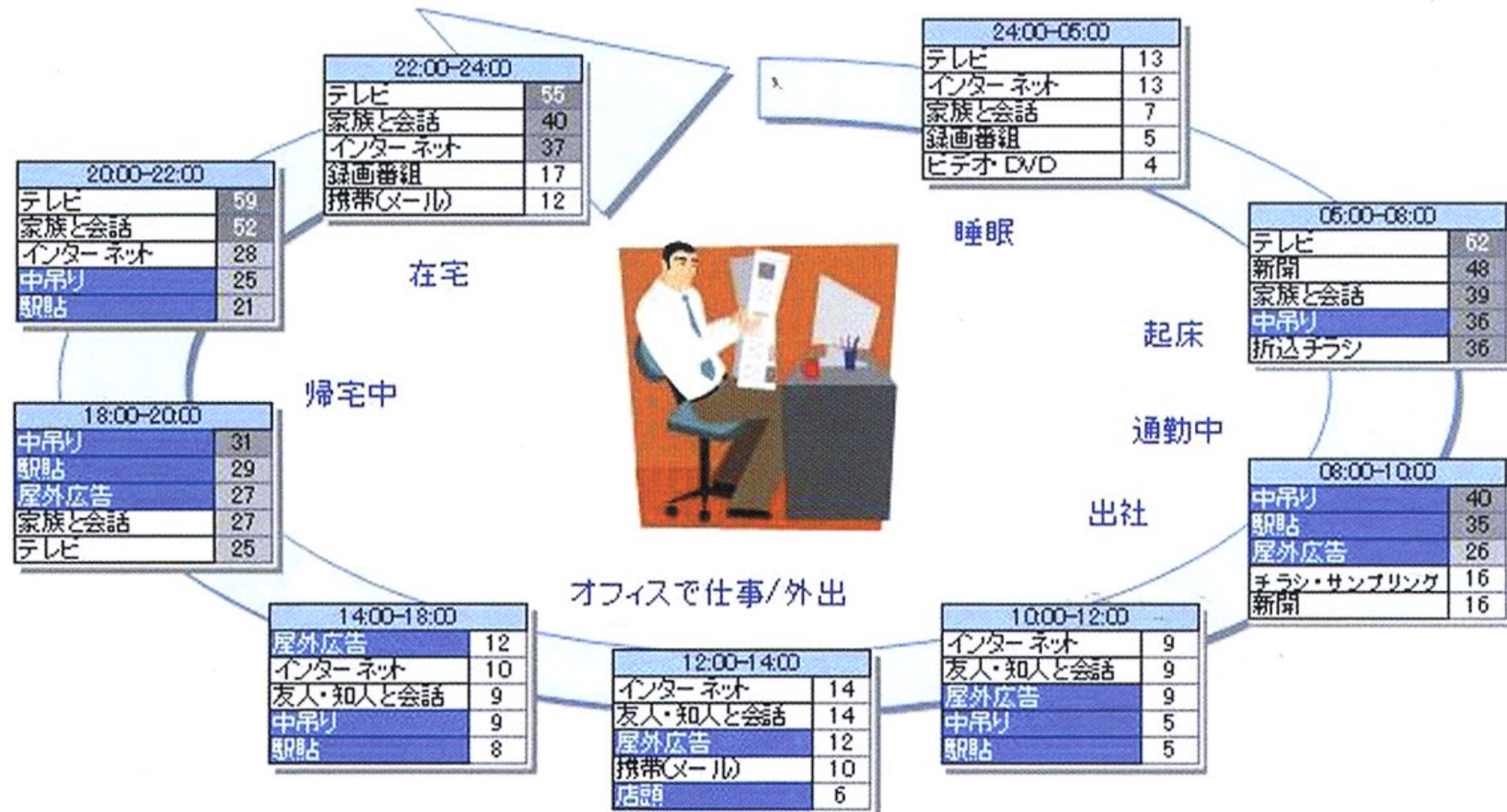
への取り組みなど、非常にクリエイティブな可能性をもつメディアであるといえます。

生活行動接点にあわせたメッセージ開発と交通広告ならではのクリエイティブとの相乗効果、その効果を検証・実証できる科学的なマーケティングデータ

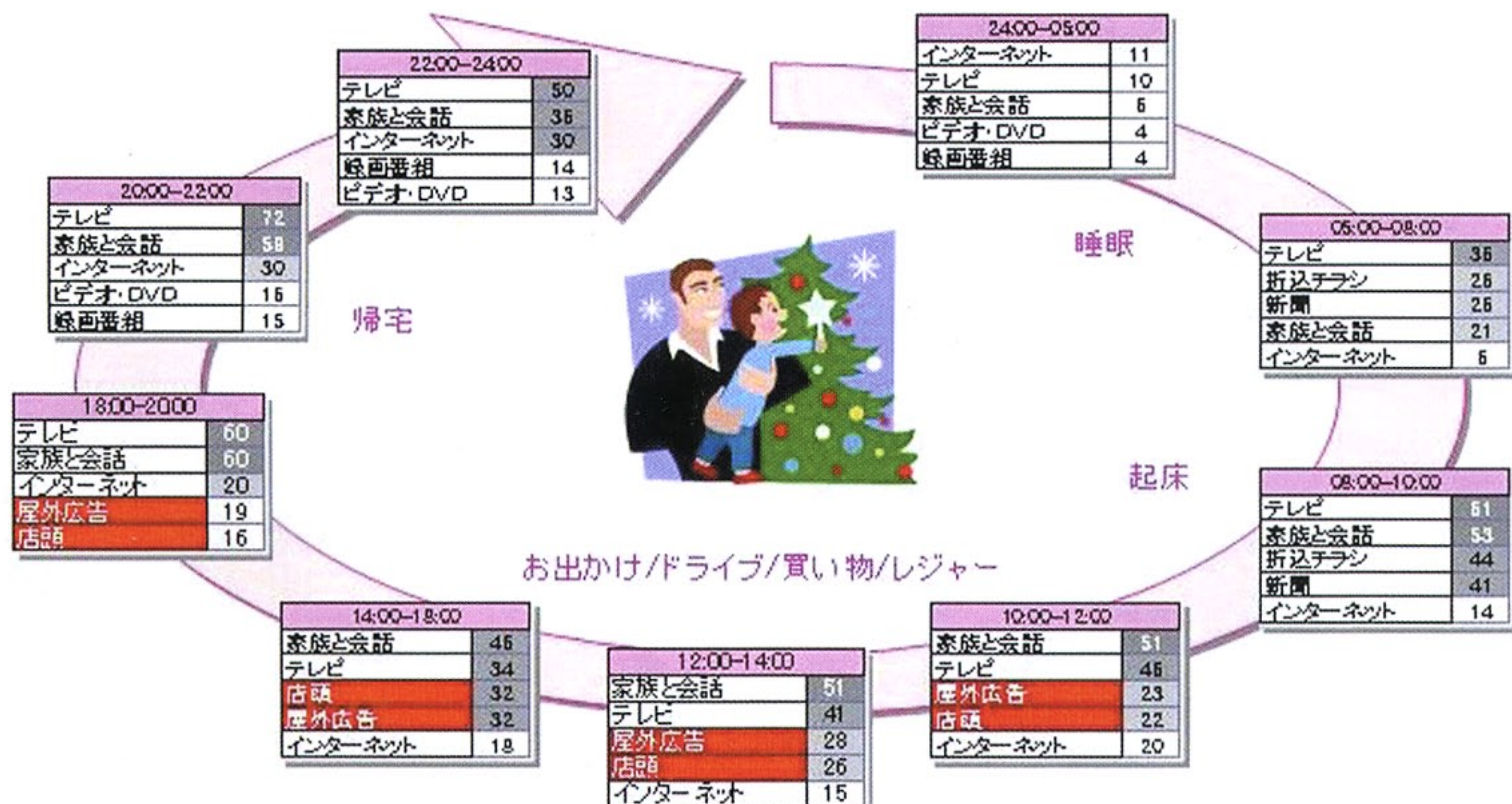
の整備により、交通広告は、他のメディアではできないアテンション効果を発揮し、新たな価値を創造できるメディアになり得ると確信しています。

ターゲットの生活の流れと接点(男性給料事務)

男性給料事務 平日の生活行動と体験接点



男性給料事務 休日の生活行動と体験接点



クロスコミュニケーションの背景

■変化する今日のメディア環境

- ・インターネットの急速な普及(家庭で、職場で)
- ・携帯電話の浸透(誰もが所有する時代

に)

- ・自らが商品情報を発信する生活者が急増(個人のHP、ブログ、口コミサイト、ネット掲示板、・・・)
- ・マスメディア(4媒体)への接触時間減少

■コミュニケーション・ブランディングの変化

- ・マスメディアから発信されるメッセージの到達度を最大化するメディアブランディングから、接点や販売チャネルの多様化に対応し、様々な接点を使用して、生活者にブランド体験を与える、接点プ

ランニングへと変化が求められている。

- ・マス4媒体のみならず、生活者が接触する数多くの接点を対象として、ブランドカテゴリーにとって、どの接点が重要なかを把握することが重要となる。

広場

「どこまでも42.195kmを!」

理事 勝見 亮助

ばくの脚は地面を力強く蹴って、「東京制覇」に向かっていた。パーフェクトな快走、ゴール直前だ。ついに走り抜けた。ランナーズハイとはこんな気分をいうのでしょうか—そんなのウソ!! 最初からごめんなさい。

このところ、そんなことをイメージしながら玉川上水を走っている。

何故走ろうと思ったのか、の理由なんてあまりない。考えてみると、趣味らしいものもなく、還暦を迎えた昨年、これからは短期の目標をもっていかなければ自分が何処にいつてしまうのか不安になったから。また、ちょうど出版界にとって記念すべきイベントだった雑誌協会と書籍協会創立50周年事業が終わりに向かっていた。時間も少しは作れるだろうし、これから先も体力勝負だ。

20年前に沖縄のNAAHマラソンに挑戦した時の情けないゴールを思い出してみた。あの時は前半でペースを上げ過ぎ、膝の痛みの連続だった。負けるのはなれているが、トラックで高齢者にスリットと抜かれたことをいまでも冗談で揶揄される。

もう一度、やってみよう。東京マラソンを。ひょうたんから駒。それが本当になり、だんだん本気

になってしまった。

自分をその気にさせ体力をつけるまでが大変。走ってみると1キロでも苦しくて、何度か止めようかと思った。そんな気持ちの連続。3キロ、5キロ...そのうち意外なことが分かってきた。世の中広がっていくようで、いろいろな光景に出会う。それに考えながら走るのが面白い。何か判断しなければいけない時はとてもいい。家で考えるより効率的だし、健康的だ。そこまで言い切るのには、かみさんのお陰。我が家の場合、女房たるものは「いつでも言うものならびと騒動になる。マラソンをすること自体、親類からの反対に遭ってしまった。」とんでもない、そんな年で「急にどうしたの」「携帯を持って出てって」と気遣うのは分かるが、こちららもめけてはいられなかった。

走る苦痛と周囲の雑音を乗り越え、新年から快調に跳ばすようになる。1月の距離は220キロを超えた。3カ月で8キロの減量に成功した。体も絞まり、このままずっと気持ちよく走れるようなハイな気分にもなる。でも20キロまでは走れるが、42.195キロを走破する自信はいまでも全くない。

そんなときに脳梗塞で倒れた友人から電話をもらった。2年間苦しいリハビリをしており、それもままならない。「お前、出るんだってな。応援

しているから、無理せずにがんばれよ!」その一言がとても嬉しかった。何年も苦しんでいるやつに比べれば、大層なことを言うなんて恥ずかしい。

また、ある日、うちのかみさんが「面白そう」と言いながら買ってきた本をテーブルにそっと置いた。村上春樹の「走ることについて語るときに僕の語ること」。少しはやつも分かってきたのだろう。そう思うと心地よい気分になってしまった。

走り始めてから4カ月が経つ。ともかく年末年始の会合をどのように消化するかが一番の難関だった。いま考えると、走ることとはこれで終わりというわけにもいかないだろう。次への目標は? 継続させることって、いかに大変な覚悟がいるか。

つたない原稿になってしまったが、締め切りが東京マラソンのスタートする以前であるのが何よりも幸いと思った。

2月17日に開催された東京マラソンで(3万人が参加)、ランナー勝見亮助氏は42.195kmを無事走破されました! おめでとうございます、お疲れ様でした。

編集部

今回は理事 戸田氏の予定です、おたのしみに。

最近の駅メディア環境整備事例

「jekki」媒体のトピックス

昨今の交通広告では、新素材や新製品等の関連技術の開発スピードが速く、それらをいち早く取り入れた広告展開も目立つ。「jekki」でもサインボードの「モジュール化・大型化」をベースに「環境にやさしいLED光源の導入」を推進し、より一層の媒体価値向上を目指している。また「電子ペーパー」等、新しい素材の広告用途への応用についても、積極的に取り組んでいる。

ここでは媒体整備における今年度のトピックスをトレースし、その展開例についてレポートしたい。

媒体環境の整備とLED化

サインボードについては、駅改良工事に合わせて「大型化・モジュール化」や新たなLEDユニットの開発に取り組んできた。最近の施工例では横浜駅や立川駅中央通路のリニューアルに合わせて実施された柱や壁面への埋め込みサインボード展開や大崎駅線路脇への外照LEDユニットの新設等が挙げられる。

【横浜駅中央通路】

横浜駅では、07年6月より順次、中央通路内の柱25本59面、同ルミネエントランスゾーンでは12本の柱30面について、

エリア毎にサイズを統一してLED光源サインボードを新設した。この事例では、JRの工事・デザイン部門とかなり早期の段階から連携し、開発を行なった。直線を基調とした新しい横浜駅の自由通路環境に相応しいデザインで、できるだけ広告面を大型化し、かつLEDを使用した省エネタイプとすべく、広告面のサイズや仕様について何案かのパースを作成して検討した。お客さまの動線や天井高をもとに最終的に決定した媒体サイズは以下のとおりである。

(1) 中央通路柱サインボード

- ① 1・69m(タテ)×0・82m(ヨコ)×33面
- ② 1・12m(タテ)×0・82m(ヨコ)×14面
- ③ 2・53m(タテ)×0・90m(ヨコ)×12面
(改札口正面)

(2) ルミネエントランスゾーン柱サインボード

- ① 2・83m(タテ)×0・90m(ヨコ)×12面
- ② 2・68m(タテ)×0・90m(ヨコ)×8面
- ③ 2・53m(タテ)×0・90m(ヨコ)×2面
- ④ 2・43m(タテ)×0・90m(ヨコ)×8面

特にルミネエントランスゾーン及び改札口正面の柱では、大型シート展開ができるように天井から床までの全面内照タイプとし、迫力のある広告展開が可能な仕様とした。

また、柱埋め込みのポスター板も上部にLED照明を埋め込んだ特殊仕様とし、駅のインテリアに合わせてハイグレードなポスター展開を可能にした。

【立川駅自由通路】

立川駅では、07年10月の「エキュート立川」開業に合わせて自由通路の全面リニューアルが行なわれた。この改良工事に合わせて、自由通路エリアの壁面上部及び柱埋め込みサインボードもモジュール化し全面リニューアルを実施した。特に通路のデザイン上、壁面上部のサインボードは限られたスペースで広告面積を大きくとるため、横長サイズのLEDボードが採用された。媒体サイズは以下のとおりである。

(1) 自由通路壁面上部サインボード

- ① 0・70m(タテ)×3・00m(ヨコ)×22面



自由通路 柱サインボード



自由通路柱 全面内照パネル



ルミネエントランスゾーン



柱埋め込みサインボード



立川駅自由通路

〔2〕柱埋め込みサインボード

① 3・03m(タテ)×0・94m(ヨコ)×12面



実証実験(千駄ヶ谷駅)



大崎駅大型サインボード(LED外照)

〔外照式LEDユニットを使用した大型サインボード〕

07年10月に大崎駅埼京線脇に3m×4mの大型サインボードを5面新設した。このサインボードで当社は初めて、従来、外照光源として使用していた蛍光灯やハ



仙台駅吹き抜けコンコース(西側)

〔仙台駅吹き抜けコンコース〕

ロゲンランプに替わり、LED外照ユニットを採用した。このユニットは縦幅3mに及ぶ大型ボードを均一に照明し、かつ省エネ仕様とするために、複数メーカーの試作品による実証実験を経て開発したもので、広告面全体を柔らかな光で均一に照らすことができる。LED化により光源寿命は約5倍となり球交換のサイクルが大幅に伸びたことと、消費電力を約4割カットできたことにより、より環境にやさしい仕様とすることができた。

駆けて駅のメインエントランスである西口の吹き抜けコンコース上部の大型サインボードの全面リニューアルがすすんでいる。このリニューアルでは吹き抜け壁面の東西南北各面に設置されていた大小のサインボード25面を全て撤去し、新たにモジュール化した19面をLED仕様で新設する。このサインボードは規格サイズが縦2・4m×横4・0mと極めて大きいため、従来のアクリル仕様ではなく、バックライトLEDとFFシートという組み合わせを初めて採用した。また、柱には複数クライアントへの販売を想定したスクロールタイプのサインボードも設置し、エリア全体の媒体価値の向上を狙っている。

また、これらの広告のリニューアルに合わせてJRでは改札上部に大時計を新



柱埋め込みスクロールサイン(イメージ)

設し、新たな駅のシンボルも誕生した。

(1) 吹き抜け上部サインボード

① 2・40 m (タテ) × 3・20 m (ヨコ) × 2 面
② 2・40 m (タテ) × 4・00 m (ヨコ) × 17 面

(2) 柱埋め込みスクロールサイン

① 2・70 m (タテ) × 1・50 m (ヨコ) × 6 面

■媒体整備における 今後の検討課題

今年度の主な開発事例について述べてきたが、LED分野に限っても数多くの新技術や新製品が多数リリースされている。最近注目されるのは、高輝度かつローコストのエッジライトパネルの普及と蛍光管タイプのLEDユニットの登場である。エッジライトパネルはその構造上、大型化が難しくかつ小ロットにおけるコストはバックライトに比べて割高で

あった。最近ではパネル製造技術の進歩により、バックライトと同様の条件で利用できる製品が増えてきた。特に一つの光源で両面を広告面に使える「両面エッジライトパネル」は、線路間の両面内照サインボードをローコストでリニューアルする際の検討候補となりうる。また、もなく本格的に製品化される「蛍光管型LEDユニット」も既存の蛍光管を交換するだけで、LED化できるため既設のパネルを活かしたローコストの媒体リニューアルには最適である。引き続き業界の

動向や新製品の情報を注意深くトレースして、媒体の価値向上につなげていきたい。

また、素材としてのLED以外にも電子ペーパーや有機ELディスプレイの登場、液晶ディスプレイのスリム化、LEDビジョンのローコスト化など、注目すべきテーマは多い。今後とも様々なジャンルの素材から広告用途への応用を検討・検証していきたい。

北海道支部

岩崎会長による特別講義と 支部新年懇親会を 開催しました。

平成20年1月18日(金) JARAP北海道支部主催による岩崎会長の特別講義が市内のホテルで開催されました。



講師にお迎えした岩崎会長の講義に対する会員各社の皆様方の関心の高さもあり、参加会員会社20社・参加者42名が熱心にメモを取る等、大盛会でした。

その後、北海道支部の新年懇親会も開催され、来賓として岩崎会長、北海道旅客鉄道株式会社より開発事業本部・平川副本部長はじめ3名の方々の出席をいただき、千葉支部長の挨拶の後、会は終止和やかに運びお開きとなりました。

今こそ北の大地へ！

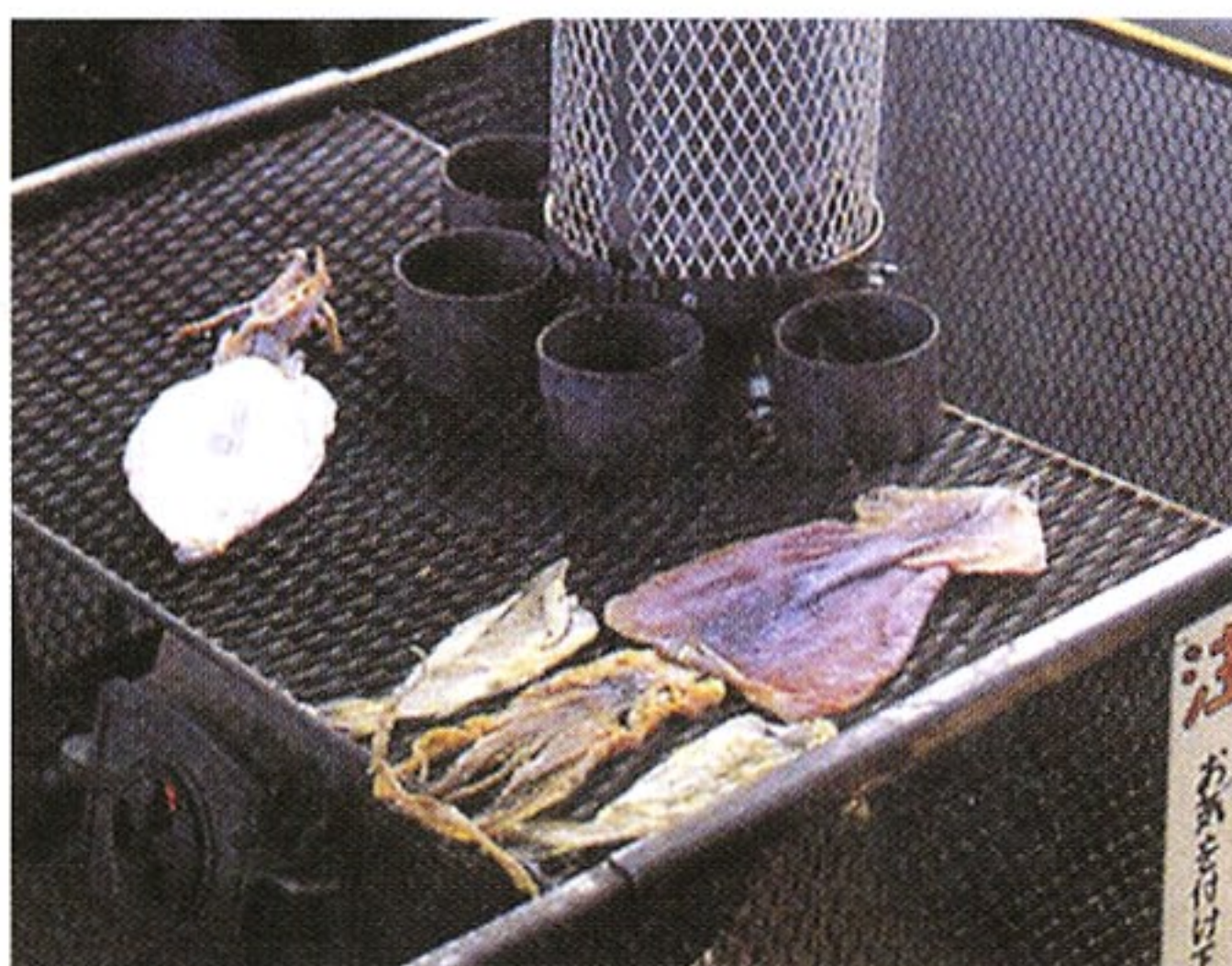
——支部おすすめ冬の観光地——

今年は雪が少ないかなと思っていたのは先日まで、最近は毎日のように降り積もり一面雪で覆われています。

そのような中でも、先日の雪祭りなど



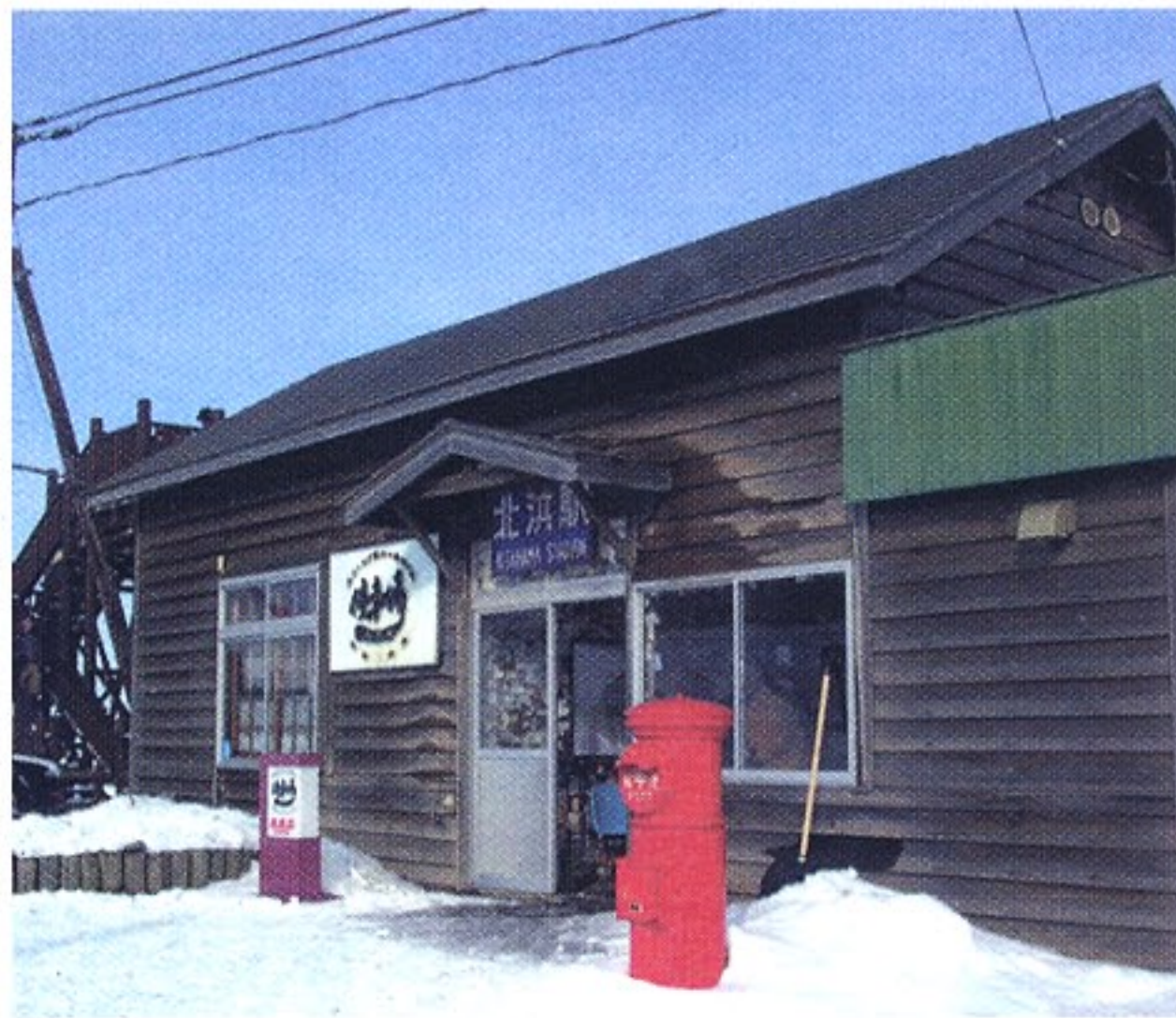
流氷ノロッコ号



だるまストーブ



北浜駅のノロッコ号



北浜駅

は観光客が大変多く見受けられました。北海道の冬といえば皆さん色々思い浮かべるでしょうが、2005年世界遺産に登録された知床など見所はいっぱい。冬の知床というと、流水に覆われたオホーツク海。流水を見ながら走る流水ノロッコ号は楽しさ満載。

大漁旗、魚網で飾りつけられ、石炭ダ



道東マップ



北浜駅展望台

ルマストーブまで車内に設置されています。車内販売でスルメを買ってこが焼くなんて、なかなかない体験も出来ます。途中停車の北浜駅はオホーツク海に最も近い駅で、展望台から流水原を一望出来ます。流水のきしむ音を聞くことが出来るかもしれません。

冬の知床だけではなく、少し足を延ば



タンチョウヅル

すと川湯温泉や釧路湿原も巡れます。釧路湿原などは車では入れない列車ならではの冬の景色が楽しめます。SLでめぐる湿原で、タンチョウやエゾシカなどの野生動物に出会えるチャンスがあれば、カメラに収めてみるのも湿原ならでは。みどころ満載の冬の北海道を、JRで巡ってみてはいかがでしょうか。

首都圏支部

首都圏支部総会が開催される

さる2月4日(月)、高崎、水戸、新潟、長野の4地区が首都圏支部に編入されて初めての支部総会が池袋のホテルメトロポリタンにおいて開催されました。

当日は支部総会に先立ち、13時30分から支部幹事会を開催、今年度から新たに首都圏支部に編入になりました4地区からも幹事が出席し、今年度の事業活動報告、来年度の活動計画などを審議いたしました。



首都圏支部幹事会

その内容は14時30分からの支部総会で小島紀久雄支部長から当日出席の82名の会員に諮られ、満場一致で承認されました。

来年度は今年度の実績を踏まえて、更に実務研修、セミナー等を通じた人材の育成と教育、地球温暖化防止キャンペーンへの全面的なバックアップなどの鉄道広告の価値向上、関東交通広告協議会(11社会)及び会員相互の交流と連携強化をはかっていきたいと考えています。なお、新年度の主な行事予定は以下の通りとなっています。

- 6月 支部幹事会(予算編成会議)
- 7月 第1回セミナー
- 8月 鉄道広告実務研修(2回実施)
- 10月 第2回セミナー
- 来年2月 支部総会・第3回セミナー



乾杯の発声をする滝久雄副支部長



懇親会で挨拶をする小島紀久雄支部長



熱気あふれる支部総会会場



中締めをする永井秀雄幹事



セミナーで講演する吉良俊彦氏

支部総会終了後は、第3回目の支部セミナーが開催され、今回はターゲットメディアソリユーション代表の吉良俊彦氏による「ターゲットメディア主義」の講演を行いました。ターゲットメディアとしての交通広告の可能性について熱く語る吉良氏の講演は、プレゼンテーションという切り口でもおおいに受講者の心を打ち、当日参加した161名の会員からも高い評価をいただきました。この内容は次号4月号でご紹介

させていただきます。

セミナー終了後の懇親会には113名の会員が出席し、小島紀久雄支部長の開会挨拶、岩崎雄一会長の来賓挨拶、滝久雄副支部長の乾杯の音頭と続き、関東交通広告協議会からご臨席いただいた14名の招待者も交えて交歓をはかりました。和やかな宴は永井秀雄幹事の中締めによってお開きとなりました。

事務局からのお知らせ

新しく協会に入会された会員社様をご紹介します。

よろしくお願いいたします。

正会員(1社)

近畿・中国・北陸支部

日本サイン(株)

大阪府大阪市

代表取締役 北山 誉至宗

(敬称略)

第4回理事会開催のお知らせ

3月25日(火)に平成19年度第4回理事会をホテルメトロポリタンエドモント(飯田橋)にて開催いたします。

既にご案内を理事の皆様にお送りしてありますので、3月10日までに欠席の返信をお願いいたします。

編集後記

東京でも2月初旬には積雪があり、近所のお宮の境内もどこか風情のあるたたずまいでした。マイナスイオンを発生しているようで気持ちがよかったです。

この号が出るころは3月になっています、みなさまからの桜の便りお待ちしております。

●ご意見、ご感想、写真はこちらへどうぞ。
information@jarap.jp



雪化粧した都内の神社

●会員社の代表者が変更になった場合など、変更届はJARAPホームページ(<http://www.jarap.jp>)の「各種届出書類」に用意してございますので、ご記入の上、事務局宛にお送り下さい。ご協力お願いします。